

## 鏡開き（餅つき大会）

平成25年1月20日（日）本塾の鏡開きが行われました。この鏡開きは、芋煮会と共に、塾生（一般の部・子供の部）と保護者、その家族と一緒に参加できる行事として、秋の「芋煮会」と並ぶ人気の二大行事の一つです。

一般的に「鏡開き」とは、お正月神様 {歳徳神（としとくじん）・歳神（としがみ）} へのお供えの鏡餅（かがみもち）を1月11日にお下げして、一年の一家円満を願いながら頂く行事です。

鏡餅は、大小の丸い餅を重ねて出来ております。古来、お餅は歳神様のご神体と考えられており、餅は望月（もちづき・満月）に通じ、その丸い形から家庭円満を象徴するとも考えられており、縁起物としてお正月に飾られるようになったと言われています。

神様にお供えした餅は当然固くなっております。武士の家では刃物を使って切ることは切腹を連想するので縁起が悪く、また神様とも縁を切らないようにと刃物は使いません。そこで金槌などで叩きますが、「割る」とか「砕く」という言葉は使わずに、縁起がよいように運を「開く」という意味をこめて「鏡開き」という表現を使っています。結婚式での披露宴の最後に、「終える」とか「閉じる」「閉める」という言葉（これを忌み詞（ことば）といいます）を避けて「お披露喜」というようなものです。鏡餅を頂くことを「歯固め」と言いますが、これは、固いものを食べて歯を丈夫にし、歳神様に長寿を願うことからです。

本塾ではもちろん11日には出来ませんので、第3日曜日に行っています。実際に神様にお供えした餅ではなく、「鏡開き（餅つき大会）」と名付けて、昔から餅は「杵と臼」を使って搗（つ）いたということをお子さんに知ってもらい、体験してもらうために行っております。平成14年5月に本部・利府道場が出来た翌年の平成15年の1月から続いております。資料を見てみますと、最初に手探りで始めた15年の鏡開きに135名（一般69名、小・中学生44名、幼児22名）参加とありました。去年は130名、一昨年136名とほぼ同じ参加人数です。

ところが本年は193名（一般塾生23、子供塾生75、保護者82、兄弟13）の方が参加され、過去最大の人数でした。

子供の部の塾生のお母さん方、そして親睦会役員の方々の絶大なるご協力によってこの鏡開きは成り立っています。中でも石村基指導員と奥様のお手伝いは大変なものです。自分の家で収穫したもち米40kgを自宅で前日から研いで水につけておき、大崎市古川から持参して来ていただくのですが、杵と臼も一緒に持ってきてくださいます。大量の野菜も漬物も提供です。臼と杵は門馬伸至指導員も提供してくれますし、ガスは常松成己顧問が提供してくれます。このような多くの方々の献身的な協力があるからこそ、一家族3名まで無料（親睦会費は頂いているのですが）で参加が可能なのです。ほんとにありがたい限りです。

役員は9時、お手伝いのお母さん方は9時半に集まりそれぞれが自分の行うことを次々と手際よく行っていきます。鏡開きの開始は11時ですから、一般の参加者は10～15分くらい前に集まってきます。

最初に鈴木康弘指導員の開会の言葉、続いて細山勇親睦会長の挨拶があり、塾長が神事を執り行ないます。まず、お祓いをし、神棚に向かって新しい年・月を寿ぎ、皇室・国家・国民を言祝ぎ「天下泰平、五穀豊穰、万民豊楽」そして塾生、その家族の精神健全・身体健固・心願成就を願って祝詞を奏上致します。玉串を奉げた後、塾長はご挨拶の中で、「昨年の大震災のこと、また年が改まったので、最近では西暦が多く使われるが、和暦（日本の元号の平成）そして皇紀（神武天皇が即位した日を建国の日と定めそこから数えて）2673年。個人でも家庭で誕生日を祝うのに、国家が誕生した日を祝わないのは不自然である。わが国では、建国記念日には必ず祝うグループと、祝うどころか阻止をしようというグループが存在する。右翼も左翼もなく政治的なイデオロギーは抜きにして、素直にお祝いしたいものである。外国では建国記念日、あるいは独立記念日は大いに祝杯を上げている。今は小学生の子供さんも10年、20年するとこの日本を背負って立つ若者になっている。少しでもより良い日本にするために、引き続き子供の部に力を注ぎますので、保護者の方のご協力をお願いしたいし、そのような若者を育てるために、合気道の稽古を通して、本年も本塾の五大基本方針を実践してまいります」というようなお話しをされました。本塾の「五大基本方針」

- 1、一人でも多くの人に合気道を！
- 2、合気道を通して世の中に貢献を！
- 3、合気道を通して日本の伝統文化を！（学ぼう、守ろう、伝えよう）
- 4、合気道を通して日本人の心をとりもどそう！
- 5、合気道を通して日本人としていかに生きるべきかを！（考えよう）

その後、子供さんは駐車場に出て二手に分かれて並び、順番にお餅を搗きました。毎年来ている子、初めて参加する子、どの子も笑顔イッパイ。子供は風の子であります。杵は大・中・小と揃えていますので年令にあわせて好きな物が選べます。3歳くらいになれば小さな杵で搗くことが出来ます。お餅を搗いたところで、12時過ぎに全員道場に集まり「黙想…そして、いただきます」それからは友達同士、あるいは家族同士とお母さん方が用意してくださった、お雑煮、ずんだ餅、黄な粉餅、餡子餅（こしあん、粒あん）皆さんそれぞれ好きなだけ食べ放題です。塾長はじめ運転しない方はお神酒（みき）…お酒を神様に奉げ、お下げするとお神酒に変わります…を少し頂いております。ジュースも、お茶も十分用意してあります。1時間以上食べたり飲んだり、お雑煮はよい味付けでほんとおいしく3杯もお替りをする人もおりました。どの子どもどの人もお腹いっぱい。お腹がいっぱいになると人は幸せになります。皆さん笑顔です。笑顔はほんとにいいものです。震災のことを一時皆さん忘れたでしょうか？

13時15分頃、「黙想…ごちそうさま」をして、三々五々解散いたしました。それから

の後片付けもまた大変です。道場の片付け、食べ物の後片付け、残り物、燃えるごみ、プラスチックなどなど。お手伝いのお母さん方、役員の方々の手際によさで次々と片付けられていきます。14時30分頃に全てが終了いたしました。

今年もおかげさまで無事鏡開き（餅つき大会）を終えることが出来ました。お手伝いいただいた保護者の方々、役員の方々には深く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。